

事業報告書

平成 28 (2016) 年度

自平成 28 年 4 月 1 日

至平成 29 年 3 月 31 日

一般社団法人 **経済倶楽部**

東京都中央区日本橋本石町一丁目 2 番 1 号

平成 28 (2016) 年度事業報告書

一般社団法人経済倶楽部では、当平成 28 年度（平成 28 年 4 月～29 年 3 月）において、主たる事業である「定例講演会」を 45 回（前年度 43 回）開催しました。

主要な活動であります定例講演会につきましては、引き続き第一級の講師の方々をお招きして、経済を中心に政治、内外問題についてご講演頂きました。経済についてはデフレ脱却を掲げて長期にわたる金融緩和策を継続するアベノミクスへの評価に関連した議論が活発に行われました。加えて少子高齢化時代の成長政策や今後のあるべき財政政策についてもご講演頂きました。政治に関しては、引き続き長期化する安倍政権の政権運営に関する展望が中心でした。また、国内問題では社会保障改革のポイントである医療費問題に焦点を当て、主に現場の厚生労働省、薬品業界、医療現場というトライアングルに潜む問題点を摘出して頂きました、そのほか、超高齢化社会に患者として医療機関にどう関わるかについてもお話しを頂きました。一方、国際問題に関しては、イギリスの EU 離脱決定や米国でのトランプ大統領登場、さらには北朝鮮のミサイル脅威の拡大、中東でのイスラム国を巡る複雑な利害、さらに中国の政治・経済情勢など国内問題と並ぶ頻度でご講演を頂きました。

講演を内容別に見ますと、日本経済・財政・金融・証券市場など 20 回、国内政治 6 回、海外経済・国際情勢 11 回、産業・経営 1 回、思想・歴史 2 回、医療関連 4 回、科学 1 回となっています（具体的な講師名、講演タイトルは 8 ページをご覧ください）。

経済倶楽部ホールを会場として行っております定例講演会ですが、出席者が 200 名を超す講演会が常態化し、220 名を超えた講演会は 7 回になっています。このため平均出席者数は 204 人で、前年度（207 人）並みを維持しています。

講演の内容は 45 回とも『経済倶楽部講演録』に収録し、当倶楽部を含め 13 を数える全国の経済倶楽部会員に毎月約 1540 部、計 12 回お届けしました。編集の際には、読みやすくわかりやすい講演録となるよう努力を重ねております。

当年度もアジア平和貢献センター（西原春夫理事長）との共催による講演会、シンポジウムを行いました。講演会は12月9日に田中明彦・東京大学東洋文化研究所教授に、「戦後日本の国際協力と今後の展開」についてご講演頂きました。また、シンポジウムは2017年2月3日に開催しました。シンポジウムのタイトルは「ヨーロッパはどこへ行く」で、縣公一郎・早稲田大学政治経済学術院教授に問題提起をして頂き、上原良子・フェリス女学院大学教授、田中素香・東北大学名誉教授、福田耕司・早稲田大学政治経済学術院教授の各氏に基調講演とパネルディスカッションを行なって頂きました。

また、当年度は8月に第3会議室のリニューアル工事を行い、スペースを拡張しました。その結果、ご講演後の講師との懇談に際し、入室可能な会員数が倍増、12名前後の会員を収容出来るようになりました。このため、人気講師の場合もこれまでのように入室をお断りすることもなくなりました。

「事業所見学会」は今年度も春、秋の2回実施しました。春は6月7日（火）に本田技研埼玉製作所狭山工場を見学しました。途中、奥多摩にある蔵元の小澤酒造に立ち寄り、主力ブランドである「澤乃井」の醸造工程を見学しました。今回の参加者は24名でした。また、秋は11月8日（火）に茨城県つくば市にあるサイバーダイナスタジオに伺い、最近、福祉・医療施設で注目されているロボットスーツを実際に装着して、その効果を実感しました。併せて近郊の牛久大仏、ワイナリーのシャトーカミヤにも伺いました。今回の参加者は28名でした。

一方、会員同士の勉強会である「経済金融懇話会」は毎月1回開催されており、年度末の回で第146回に達しました。経済、金融、証券、政治などのタイムリーな時局問題をめぐって活発な討論が行われ、毎回20名前後の参加者があります。

一方、平成22年6月から行っております「物申す会」は月1回第3金曜日を原則に開催しています。毎回、ホットなテーマをめぐって活発な議論が行われており、この年度末の回で第86回に達しました。因みに第86回のテーマは「給付型奨学金を考える」でした。

また、毎週、講演会終演後に同じ会場で映画鑑賞会を開催しています。これまで特集テーマを決めて内外の話題の映画を上映してきましたが、

昨年3月から「映画史に残る名画特集」を行っています。第1回目はビング・クロスビー主演の『我が道を往く』でした。

恒例の「銷夏パーティー」ですが、今回、7月22日（金）の17時～19時20分まで、経済倶楽部創立85周年記念の行天豊雄・国際通貨研究所理事長（当時）の講演会に引き続いて行いました。参加講師・理事12名、会員53名をはじめ72名の方々にご参加を頂きました。理事長挨拶の後、参加頂きました講師にミニ・スピーチを行って頂きました。スピーチされたのはノンフィクション作家の塩田潮氏、国際金融問題研究家の豊島逸夫氏でした。会の後半では、日本フィルハーモニーの首席演奏者による「木管三重奏」をお楽しみ頂きました。

また、冬の「忘年パーティー」も参加者の利便を考慮し、12月2日（金）の定例講演会後に開催しました。今回、ご講演は榊原英資・青山学院大学特別招聘教授に行って頂き、その後15時～17時20分までパーティーを行いました。参加されたのは講師・理事17名、会員37名はじめ59名の方々でした。恒例のミニ・スピーチは「インサイドライン」編集長の歳川隆雄氏と東京大学大学院教授の川島博之氏に行って頂きました。ミニ・スピーチの後は和やかにご飲食とご歓談をお楽しみ頂き、その後、音楽タイムに移りました。音楽タイムはこれも恒例となっております日本フィルハーモニーのミニ演奏会で、今回は客員首席ホルン奏者、丸山勉氏によるホルン独奏をご堪能頂きました。

「新会員懇親会」は3回開催しました。午後のひとときのささやかな茶話会ですが、新会員の自己紹介を中心に親睦を深めることができました。

また、既存会員との懇親の場である「会員誕生会」も6回開催しました。

ゴルフ親睦会「青空会」は9月27日、昨年に引き続き神奈川県相模原ゴルフクラブで行いました。今回は東コースで開催。汗ばむような陽気でしたが、楽しい1日を過ごすことができました。参加者は11名でした。

続きまして平成28年度の会員状況、収支状況を以下にご説明いたします。

まず平成28年度末の会員総数は553名と27年度末の582名から29名の減少となりました。当年度内の入会者は個人17名、退会者は個人

36名、法人10名でした（法人会員の名義書換を除きます）。緩慢ながら会員の減少が続いておりますが、会員のご紹介による友人、知人の方々の入会が引き続き多いことに感謝申し上げます。また、会員がお知り合いに入会を勧めていただく好循環も生まれていることから、この流れをさらに強めるよう努力していきたいと思っております。

次に当年度収支についてご報告いたします（13～14ページをご参照下さい）。会費収入は5058万円で前年度比135万円の減少となりました。これは会員数が純減したためで、入会金収入も34万円と同59万円の減少となっています。会議室使用料収入については、901万円と同88万円の減少でしたが、引き続き安定的な貸し出し先に支えられ、高水準を維持することが出来ました。その他の項目としては、食堂売上は講演会時を中心としたお弁当や喫茶の販売で、93万円。これは前年度比178万円の減少でした。この結果、総収入は6815万円で、同457万円の減少（6%減）となっています。

一方、支出面では、まず会館費が2902万円。これは前年度比7万円の減少で、ほぼ横ばい水準でした。講演会関連費用の集会費は897万円で、同35万円の増加となりました。食堂経費は前年度比では7万円の減少でした。ただ、支出面では大きな減少がありました。それは、給料手当関連で、1392万円と前年度に比べ、786万円の減少となりました。これは前年度の2月末に職員が1名定年退職したためです。給与手当関連以外でも、前年度あった退職給付支出411万円がなくなりました。この結果、事業活動支出は6567万円と前年度比1855万円の減少となり、当年度の収支差額は247万円のプラス（前年度は1150万円のマイナス）と黒字になりました。

平成29〈2017〉年度事業計画

今29年度も法人会員、個人会員とも若干の減少が見込まれますが、新規入会への勧誘努力も行うことで、会費収入は前期並みの5000万円を想定しています。一方、支出面に関しましては、会館費、集会費、食堂経費など主要経費は前年度並みを想定しています。その一方で、前年

度にあった2年ごとに改訂しております会員名簿作成費用（実績18万円）が無くなるほか、前年度に85周年関連の施策として行いました創刊時からの『経済倶楽部講演録』収納用の書棚の設置や事務所改装関連の経費もありません。このため、29年度の収支予想は270万円の黒字を見込んでいます。

新年度も経済倶楽部運営のポイントは、定例講演会の充実と新規会員の増加策をより確度の高いものにする事です。定例講演会の充実策としましては、前年度もそうでしたが、政治、経済、国際問題でタイムリーな講師選択に努めて行きます。

一方、新会員増加策ですが、鍵となるのは対外的な告知をより効果的に浸透させることと既存会員からを紹介を重視することです。そのため、『週刊東洋経済』への広告出稿に加えて、今年度から月刊『監査役』への1カ月ごとの広告出稿を再開しました。加えて、『週刊東洋経済』の前金読者向けダイレクトメールに経済倶楽部広告の同梱を開始しました。これについては、反応を見で頻度を上げて行く方針です。また、既存会員からのご紹介ですが、これについては、評議員を始め、過去にご紹介実績のある方に積極的にお声掛けするなど引き続き強化してゆきます。

また、今年度も8月の定例講演会の休止時期を活用しまして、第一会議室やエレベーターホール、事務室の老朽化した天井部分の改装工事を行います。

ホールや会議室の貸室事業につきましては、前年度に第三会議室のリニューアル拡張工事が終了したことやケータリング方式による懇親会の定着もあり、安定的な貸し出し先を中心に強化して行きます。

また、2014年度から開始しております名古屋の中部経済倶楽部との定例講演会への相互参加も、都合をつけて参加される会員も増えており、深めてまいる所存です。

会員の皆様におかれましては、今後も経済倶楽部へのこれまでと変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

庶務の概要

定時会員総会

平成 28 年 5 月 30 日午前 11 時より経済倶楽部ホールにおいて定時会員総会を開催、下記案件を付議しました。

報告事項 平成 27 年度（平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで）
事業報告の件

決議事項

第 1 号議案 平成 27 年度収支計算書、貸借対照表、正味財産減少計算書
承認の件

第 2 号議案 平成 28 年度収支予算案及び事業計画案承認の件

第 3 号議案 監事選任の件

上記はいずれも原案通り承認可決されました。

理事会

平成 28 年	4 月 25 日	5 月 30 日	7 月 25 日	10 月 31 日
平成 29 年	1 月 30 日	以上 5 回開催いたしました。		

評議員会

平成 29 年	3 月 7 日	以上 1 回開催いたしました。
---------	---------	-----------------

見学会 懇親会 研究会

事業所見学会	6 月 7 日	本田技研埼玉製作所狭山工場 小澤酒造
	11 月 8 日	サイバーダイnstudio キリンビール取手工場
青空会（ゴルフ親睦会）	9 月 27 日	相模原ゴルフクラブ
銷夏パーティ	7 月 22 日	
忘年パーティ	12 月 2 日	
新会員懇親会	6 月 8 日	11 月 17 日 2 月 18 日

会員誕生日会	5月19日 7月26日 9月29日 11月30日 1月31日 3月23日
映画観賞会	毎週開催 (講演会終了後)
経済金融懇話会	11回開催 (月1回開催)
物申す会	11回開催 (月1回開催)
株式投資研究会	現在休会中

『経済倶楽部講演録』

平成27年4月号より平成28年3月号まで12集頒布いたしました。

会員異動状況

年 度 初	582 名
入 会 者 数	17 名
退 会 者 数	46 名
年 度 末	553 名

*入退会者数は法人会員の名義変更を除きます

会員構成内訳

法 人 会 員	127 名
個 人 会 員	426 名
合 計	553 名

貸室利用状況

ホ ー ル	91 回
第 1 会 議 室	133 回
第 2 会 議 室	6 回
第 3 会 議 室	75 回
総 数	305 回

一般社団法人経済倶楽部 2016 年度定例講演会

講 師 (敬称略)	講演時の肩書	演 題
4/1 中 岡 望	東洋英和女学院大学客員教授	大統領選挙の行方と米国社会の変化
4/8 寺 島 実 郎	(財)日本総合研究所理事長	2016年の世界と日本—真に問われること
4/15 川 島 博 之	東京大学大学院教授	データで読み解く中国の未来
4/22 伊 藤 元 重	学習院大学国際社会科学部教授	内外経済の読み方
5/6 塩 田 潮	ノンフィクション作家、評論家	参院選に挑む安倍首相の野望と政権の行方
5/13 豊 島 逸 夫	国際金融問題研究者	どうなる円高・原油安・中国そしてマイナス金利
5/20 吉 川 洋	立正大学経済学部教授	日本経済の将来
5/27 青 山 文 平	直木賞作家	文学青年でも本好きでもなかった私が小説の書き手になった背景
6/3 和 田 秀 樹	精神科医、評論家	現在の医学界の問題点
6/10 井 堀 利 宏	政策研究大学院大学教授	アベノミクスの政治経済学：抜本的改革の提案
6/17 小 幡 績	慶應義塾大学ビジネススクール 准教授	アベノミクスの先を考える
6/24 飯 尾 潤	政策研究大学院大学教授	与野党の政策と選挙態勢
7/1 佐 治 信 行	三菱UFJモルガン・スタンレー 証券チーフエコノミスト	2016・2017年マクロ経済展望
7/8 翁 百 合	(株)日本総合研究所副理事長	医療分野の規制改革について
7/15 石 川 一 洋	NHK 解説委員	新しいアプローチと今後の日中関係
7/22 行 天 豊 雄	公益財団法人 国際通貨研究所 理事長	通貨動向と日本経済の行方
9/2 曾 我 豪	朝日新聞編集委員	日本政治と政治報道の未来
9/9 鈴 木 正 彦	東京慈恵会医科大学葛飾 医療センター神経内科診療部長	認知症を知る
9/16 河野龍太郎	BNPパリティ証券チーフエコノミスト	日本経済の見通し～アベノミクスの帰結は？
9/23 高 原 明 生	東京大学大学院教授	政治の季節の到来—中国の政治動向
9/30 長 尾 年 恭	東海大学教授、地震予知研究 センター長	熊本地震が意味するもの—南海トラフ巨大地震との 関係は—
10/7 出 雲 充	㈱ユーグレナ代表取締役社長	『僕はミドリムシで世界を救うことに決めました』
10/14 上 野 泰 也	みずほ証券チーフマーケット エコノミスト	内外の経済・金融政策はこれからどうなるか？
10/21 三 浦 瑠 麗	東京大学政策ビジョン研究センター 講師	『本当の冷戦後』が始まった日米関係を展望する

10/28	湯浅 卓	米国弁護士（ニューヨーク州、ワシントンDC）	ウォール街が観る米国大統領選挙と日本経済への影響
11/4	翁 邦雄	京都大学公共政策大学院教授	日本の社会経済と金融政策
11/11	浜 矩子	同志社大学大学院教授	グローバル経済の近々未来～あの角の向こう側にあるものは？～
11/18	池内 恵	東京大学先端科学技術研究センター准教授	混迷する中東情勢を展望する
11/25	山田孝男	毎日新聞特別編集委員	皇位継承と政権、報道について
12/2	榊原英資	青山学院大学特別招聘教授	2017年の世界と日本
12/9	田中明彦	東京大学東洋文化研究所教授	戦後日本の国際協力と今後の展開
12/16	嶋中雄二	三菱UFJモルガン・スタンレー証券景気循環研究所長	2017年日本経済の展望
1/6	藤原 帰一	東京大学大学院教授	トランプのアメリカ
1/13	若田部昌澄	早稲田大学政治経済学部教授	トランプノミクスは世界を救うのか？～トランプ時代の世界経済と日本経済の行方
1/20	庄司克宏	慶應義塾大学法科大学院教授	欧州懐疑派の台頭に揺れるEUの2017年展望
1/27	田中秀征	福山大学客員教授	トランプ大統領と日本
2/3	縣 公一郎	(問題提起) 早稲田大学政治経済学術院教授	
	上原良子	(基調講演) フェリス女学院大学教授	ヨーロッパはどこへ行く
	田中素香	(基調講演) 東北大学名誉教授	
	福田耕治	(基調講演) 早稲田大学政治経済学術院教授	
2/10	辺 真一	コリア・レポート編集長	波乱の朝鮮半島情勢—朴大統領の弾劾と日韓関係の行方、そして北朝鮮のICBM
2/17	小峰隆夫	法政大学大学院政策創造研究科教授	2017年日本経済の展望と課題
2/24	久坂部 羊	医師・作家	元医師だった父の上手な平穏死
3/3	歳川隆雄	「インサイダーライン」編集長	安倍超長期政権の行方
3/10	熊谷亮丸	大和総研チーフエコノミスト	世界経済の潮流と日本経済の行方
3/17	出口治明	ライフネット生命会長	歴史を考える
3/24	酒井啓子	千葉大学法政経済学部教授	トランプ政権のアメリカと中東情勢
3/31	井手英策	慶應義塾大学経済学部教授	尊厳を保障し、財政を改革する～私たちのくらしだから、私たちみんなで変える

(第2号議案添付書類)

平成 29 (2017) 年度 事業計画案

- | | |
|-------------------|-------|
| 1. 定例講演会 | 毎週金曜日 |
| 2. 臨時講演会、シンポジウム | 随時 |
| 3. 経済金融懇話会（会員勉強会） | 月1回 |
| 4. 株式投資研究会 | 休会中 |
| 5. 物申す会（会員勉強会） | 月1回 |
| 6. 映画観賞会 | 毎週金曜日 |
| 7. 事業所見学会 | 年2回以上 |
| 8. 近隣ミニ見学会 | 随時 |
| 9. 講師・会員親睦パーティ | 年2回以上 |
| 10. 青空会（ゴルフ親睦会） | 年1回以上 |
| 11. 新会員親睦会 | 随時 |
| 12. 会員誕生会 | 随時 |
| 13. 『経済倶楽部講演録』発行 | 年12回 |
| 14. ホームページ更新 | 随時 |

(第1号、第2号議案添付書類)

収支予算書及び財務諸表等

平成28(2016)年度

様式1 収支予算書

様式2 収支計算書

様式3 貸借対照表

様式4 正味財産増減計算書

様式5 財務諸表に対する注記

様式6 附属明細書

様式 1

収 支 予 算 書

平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	予算額(a)	前年度予算額(b)	差異(a)－(b)	備 考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①入 会 金 収 入	840,000	900,000	△ 60,000	
②会 費 収 入	50,000,000	50,000,000	0	
③会 議 室 使 用 料 収 入	9,000,000	9,000,000	0	
④事 務 手 数 料 収 入	7,076,160	7,136,160	△ 60,000	
⑤雑 収 入				
受 取 利 息	0	0	0	
雑 収 入	73,000	100,000	△ 27,000	
⑥食 堂 売 上 収 入	930,000	2,700,000	△ 1,770,000	
事業活動収入計	67,919,160	69,836,160	△ 1,917,000	
2. 事業活動支出				
①事 業 費 支 出				
会 館 費 支 出	26,390,000	26,390,000	0	
集 会 費 支 出	8,955,000	8,600,000	355,000	
講 演 集 費 支 出	2,600,000	2,700,000	△ 100,000	
会 員 名 簿 費 支 出	0	300,000	△ 300,000	
消 耗 備 品 費 支 出	200,000	200,000	0	
給 料 手 当 支 出	7,161,440	7,417,000	△ 255,560	
厚 生 福 利 費 支 出	1,560,000	1,727,000	△ 167,000	
旅 費 交 通 費 支 出	580,000	486,040	93,960	
会 議 費 支 出	119,600	104,000	15,600	
図 書 雑 誌 費 支 出	310,000	310,000	0	
修 繕 費 支 出	90,000	90,000	0	
会 員 募 集 費 支 出	450,000	570,000	△ 120,000	
食 堂 経 費 支 出	3,030,000	3,100,000	△ 70,000	
事業費支出合計	51,446,040	51,994,040	△ 548,000	
②管 理 費 支 出				
会 館 費 支 出	2,610,000	2,610,000	0	
消 耗 備 品 費 支 出	200,000	200,000	0	
印 刷 費 支 出	200,000	200,000	0	
通 信 費 支 出	30,000	25,000	5,000	
給 料 手 当 支 出	6,610,560	6,846,000	△ 235,440	
厚 生 福 利 費 支 出	1,440,000	1,594,000	△ 154,000	
旅 費 交 通 費 支 出	420,000	351,960	68,040	

会議費支出	110,400	96,000	14,400
修繕費支出	10,000	10,000	0
租税公課支出	700,000	800,000	△ 100,000
交際費支出	40,000	45,000	△ 5,000
雑費支出	1,400,000	1,500,000	△ 100,000
管理費支出合計	13,770,960	14,277,960	△ 507,000
事業活動支出計	65,217,000	66,272,000	△ 1,055,000
事業活動収支差額	2,702,160	3,564,160	△ 862,000
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
投資活動収入計	0	0	0
2. 投資活動支出			
投資活動支出計	0	0	0
投資活動収支差額	0	0	0
当期収支差額	2,702,160	3,564,160	△ 862,000
前期繰越収支差額	839,606	△ 1,639,296	△ 862,000
次期繰越収支差額	3,541,766	1,924,864	1,616,902

様式2

収 支 計 算 書

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

(単位：円)

科 目	予算額(a)	決算額(b)	差異(a)－(b)	備 考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①入 会 金 収 入	900,000	340,000	560,000	
②会 費 収 入	50,000,000	50,583,000	△ 583,000	
③会 議 室 使 用 料 収 入	9,000,000	9,017,075	△ 17,075	
④事 務 手 数 料 収 入	7,136,160	7,076,160	60,000	
⑤雑 収 入				
受 取 利 息	0	33	△ 33	
雑 収 入	100,000	208,059	△ 108,059	
⑥食 堂 売 上 収 入	2,700,000	931,550	1,768,450	
事業活動収入計	69,836,160	68,155,877	1,680,283	
2. 事業活動支出				
①事 業 費 支 出				
会 館 費 支 出	26,390,000	26,408,799	△ 18,799	
集 会 費 支 出	8,600,000	8,971,872	△ 371,872	
講 演 集 費 支 出	2,700,000	2,581,882	118,118	
会 員 名 簿 費 支 出	300,000	181,008	118,992	
消 耗 備 品 費 支 出	200,000	441,092	△ 241,092	
給 料 手 当 支 出	7,417,000	7,241,483	175,517	
厚 生 福 利 費 支 出	1,727,000	1,479,909	247,091	
旅 費 交 通 費 支 出	486,040	554,752	△ 68,712	
会 議 費 支 出	104,000	110,352	△ 6,352	
図 書 雑 誌 費 支 出	310,000	326,812	△ 16,812	
修 繕 費 支 出	90,000	48,600	41,400	
会 員 募 集 費 支 出	570,000	347,166	222,834	
食 堂 経 費 支 出	3,100,000	3,074,976	25,024	
事業費支出合計	51,994,040	51,768,703	225,337	
②管 理 費 支 出				
会 館 費 支 出	2,610,000	2,611,860	△ 1,860	
消 耗 備 品 費 支 出	200,000	441,092	△ 241,092	
印 刷 費 支 出	200,000	144,720	55,280	
通 信 費 支 出	25,000	31,054	△ 6,054	
給 料 手 当 支 出	6,846,000	6,684,447	161,553	
厚 生 福 利 費 支 出	1,594,000	1,366,071	227,929	
旅 費 交 通 費 支 出	351,960	401,718	△ 49,758	

会議費支出	96,000	101,864	△ 5,864
修繕費支出	10,000	5,400	4,600
租税公課支出	800,000	685,350	114,650
交際費支出	45,000	116,504	△ 71,504
雑費支出	1,500,000	1,318,192	181,808
管理費支出合計	14,277,960	13,908,272	369,688
事業活動支出計	66,272,000	65,676,975	595,025
事業活動収支差額	3,564,160	2,478,902	1,085,258
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
投資活動収入計	0	0	0
2. 投資活動支出			
投資活動支出計	0	0	0
投資活動収支差額	0	0	0
当期収支差額	3,564,160	2,478,902	1,085,258
前期繰越収支差額	△ 1,639,296	△ 1,639,296	0
次期繰越収支差額	1,924,864	839,606	1,085,258

収支計算書に関する注記

1. 資金の範囲

資金の範囲には、現金預金、未収会費、未収入金、仮払金、前受金、預り金及び仮受金を含めております。

2. 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりであります。

(単位：円)

	前期末残高	当期末残高
現金預金	14,692,787	12,809,883
未収会費	144,000	88,000
未収入金	1,628,138	1,276,190
仮払金	404,301	199,720
合計	16,869,226	14,373,793
前受金	17,354,800	12,708,800
預り金	552,243	367,904
仮受金	601,479	457,483
合計	18,508,522	13,534,187
次期繰越収支差額	△ 1,639,296	839,606

様式 3

貸借対照表

平成 29 年 3 月 31 日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現 金 預 金	12,809,883	14,692,787	△ 1,882,904
未 収 会 費	88,000	144,000	△ 56,000
未 収 入 金	1,276,190	1,628,138	△ 351,948
仮 払 金	199,720	404,301	△ 204,581
流動資産合計	14,373,793	16,869,226	△ 2,495,433
2. 固定資産			
(1) その他の固定資産			
建 物 附 属 設 備	1,148,420	1,394,643	△ 246,223
什 器 備 品	624,469	797,766	△ 173,297
電 話 加 入 権	83,100	83,100	0
その他の固定資産合計	1,855,989	2,275,509	△ 419,520
固定資産合計	1,855,989	2,275,509	△ 419,520
資 産 合 計	16,229,782	19,144,735	△ 2,914,953
II 負債の部			
(1) 流動負債			
前 受 金	12,708,800	17,354,800	△ 4,646,000
預 り 金	367,904	552,243	△ 184,339
仮 受 金	457,483	601,479	△ 143,996
流動負債合計	13,534,187	18,508,522	△ 4,974,335
(2) 固定負債			
退 職 給 付 引 当 金	1,931,028	1,935,531	△ 4,503
固定負債合計	1,931,028	1,935,531	△ 4,503
負 債 合 計	15,465,215	20,444,053	△ 4,978,838
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産	0	0	0
(うち基本財産への充当額) (0)	0)	0)
(うち特定資産への充当額) (0)	0)	0)
2. 一般正味財産	764,567	△ 1,299,318	2,063,885
(うち基本財産への充当額) (0)	0)	0)
(うち特定資産への充当額) (0)	0)	0)
正 味 財 産 合 計	764,567	△ 1,299,318	2,063,885
負 債 及 び 正 味 財 産 合 計	16,229,782	19,144,735	△ 2,914,953

様式 4

正味財産増減計算書

平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 入金収入	340,000	935,000	△ 595,000
② 会費収入	50,583,000	51,937,000	△ 1,354,000
③ 会議室使用料収入	9,017,075	9,906,209	△ 889,134
④ 事務手数料収入	7,076,160	7,136,160	△ 60,000
⑤ 雑収入			
受取利息	33	3,155	△ 3,122
雑収入	212,562	90,657	121,905
⑥ 食堂売上収入	931,550	2,714,377	△ 1,782,827
経常収益計	68,160,380	72,722,558	△ 4,562,178
(2) 経常費用			
① 事業費			
会館費	26,408,799	26,476,970	△ 68,171
集会費	8,971,872	8,628,973	342,899
講演集費	2,581,882	2,699,316	△ 117,434
会員名簿費	181,008	0	181,008
消耗備品費	441,092	93,885	347,207
給料手当	7,241,483	11,327,121	△ 4,085,638
退職給付費用	0	1,006,998	
厚生福利費	1,479,909	2,590,020	△ 1,110,111
旅費交通費	554,752	563,072	△ 8,320
会議費	110,352	106,859	3,493
図書雑誌費	326,812	312,412	14,400
修繕費	48,600	0	48,600
会員募集費	347,166	572,140	△ 224,974
減価償却費	63,924	424,886	△ 360,962
食堂経費	3,074,976	3,149,625	△ 74,649
事業費合計	51,832,627	57,952,277	△ 5,112,652
② 管理費			
会館費	2,611,860	2,618,602	△ 6,742
消耗備品費	441,092	93,885	347,207
印刷費	144,720	202,500	△ 57,780
通信費	31,054	23,536	7,518

給料手当	6,684,447	10,455,805	△ 3,771,358
退職給付費用	0	929,538	△ 929,538
厚生福利費	1,366,071	2,390,788	△ 1,024,717
旅費交通費	401,718	407,742	△ 6,024
会議費	101,864	98,640	3,224
修繕費	5,400	0	5,400
租税公課	685,350	1,036,200	△ 350,850
交際費	116,504	48,975	67,529
雑費	1,318,192	1,753,456	△ 435,264
減価償却費	355,596	66,025	289,571
管理費合計	14,263,868	20,125,692	△ 5,861,824
経常費用合計	66,096,495	78,077,969	△ 11,981,474
当期経常増減額	2,063,885	△ 5,355,411	7,419,296
2. 経常増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益合計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用合計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	2,063,885	△ 5,355,411	7,419,296
一般正味財産期首残高	△ 1,299,318	4,056,093	△ 5,355,411
一般正味財産期末残高	764,567	△ 1,299,318	2,063,885
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	764,567	△ 1,299,318	2,063,885

様式5

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却の方法

定額法によっております。

(2) 引当金の計上基準

退職給付引当金は、役員に支給する退職金の期末要支給額から独立行政法人勤労者退職金共済機構中小企業退職金共済事業本部に積み立てている年金資産残高を控除した金額を計上しております。

(3) リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっています。

(4) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込み方式によっています。

2. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりであります。

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物附属設備	12,353,843	11,205,423	1,148,420
什器備品	7,513,200	6,888,731	624,469
合 計	19,867,043	18,094,154	1,772,889

様式6

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

該当事項はありません。

2. 引当金の明細

(単位：円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	1,935,531	0	0	4,503	1,931,028

(注) 当期減少額「その他」は、退職給付債務増加額に比して、独立行政法人勤労者退職金共済機構中小企業退職金共済事業本部の年金資産残高の増加額が上回ったことによる取崩しであります。

(第3号議案添付書類)

任期満了に伴う理事、監事選任の件

平成29年5月29日をもって理事、監事が任期満了となります。定款第12条に基づき、以下の理事、監事の選任をお願い致したく、ご提議申し上げます。

1) 重任理事 (50音順)

浅野 純次 (元東洋経済新報社会長)
石橋 省三 (石橋湛山記念財団理事長)
大坪 孝雄 (成城学園名誉顧問)
大八木 成男 (帝人会長)
椎名 政夫 (椎名政夫建築設計事務所代表取締役)
柴生田 晴四 (経済倶楽部理事長)
塚本 隆史 (みずほFG名誉顧問)
外山 興三 (敬和綜合法律事務所代表弁護士)
野田 忠男 (元中央不動産特別顧問)
日暮 良一 (経済倶楽部事務局長)
武藤 敏郎 (大和総研理事長)
山縣 裕一郎 (東洋経済新報社社長)
若井 恒雄 (三菱東京UFJ銀行特別顧問)

2) 新任理事 (同)

荒井 裕之 (三井住友銀行日本橋法人営業部長)
北島 義斉 (大日本印刷副社長)
斉藤 惇 (KKR ジャパン会長)
茂木 友三郎 (キックマン取締役名誉会長)

3) 重任監事 (同)

岡本 和也 (元松屋顧問)
高橋 宏 (元東洋経済新報社会長)

平成 29 年 4 月 28 日

一般社団法人 経済倶楽部
理 事 長 柴生田 晴四 殿

監 事 岡本 和也
監 事 高橋 宏

私どもは、以下に掲げられております一般社団法人経済倶楽部の平成 28 年 4 月 1 日より平成 29 年 3 月 31 日までの平成 28 年度計算書類、すなわち、貸借対照表、正味財産増減計算書および収支計算書についての会計監査等民法第 59 条に定められた監査を行いましたので、次のとおりご報告いたします。

記

会計監査のため、帳簿、伝票等を閲覧し、計算書類について慎重な検討を加え、必要と思われる実査、照合等の監査手続を行いました。

その結果、計算書類は会計帳簿と合致し、一般社団法人経済倶楽部の財産および収支の状況を適正に示しており、また、理事の業務執行は適正に行われていると認めます。

以上